

本願寺 御歴代門主シリーズ

その五

本願寺第六代宗主

巧如(ぎょうよ)上人(一三七六～一四〇〇年)

巧如上人は永和二年(一三七六年)に、本願寺第五代緯如(しやく)によ。上人のご息男としてご誕生されました。

明徳四年(一三九三年)に緯如上人ご往生のあとを承けて、十八歳で本願寺の法灯を継職されました。巧如上人ご誕生の頃の日本は、南北朝の争乱の最中にあり、本願寺も教団としては不振の時代でありました。

そのなか、父の緯如上人は北陸地域の教化に乗り出され、越中国(富山県)井波に瑞泉寺を建立されました。

巧如上人はそのあとを承けて、瑞泉寺を拠点に越前地域(福井県)の教化に尽力され、越前荒川の門徒中へ弟の周覚(しゅうかく)師を派遣して、華蔵閣(けぞうかく)後の興行寺を開き、同じく弟の頼円(たのえん)師は越前藤島に超勝寺(ちようしやうじ)を建立されました。

その後、瑞泉寺には第四子の如乗(によしやう)師を住持とされました。



本願寺第六代宗主 巧如(ぎょうよ)上人

やがてこれら越前の教線の拡充は北上し、加賀国(石川県)へも大きな影響を与え、巧如上人はその過程において越前の真宗三門徒が他宗の影響を受けて唱えた異論を正すなど、真宗の立場を堅持されました。

なお巧如上人に引き続き、第七代存如(ぞんによ)上人も北陸地方の教化に尽力され、後に蓮如上人によって飛躍的に展開される本願寺教団興隆の基盤となりました。

また、巧如上人はご子息の存如上人や孫の蓮如上人らの協力をえて、畿内・北陸地域の門末に聖教の書写・下付などの教化活動を行われ、これらの地域には今もその聖教を伝える所もあります。

このように、巧如上人は本願寺一門をあげて北陸地方を中心にご教化に尽くされ、後の本願寺教団の礎となるご功績を積まれましたが、永享十二年(一四四〇年)十月十四日(旧暦)六十五歳でご往生されました。

※参考文献 福岡光超著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「初参式」(善教寺本堂)

五月二十六日(日) 午前九時半～

\*仏教婦人会主催行事

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

六月 十六日(日) 午後一時半～

\*毎月十六日に本堂において勤めております。

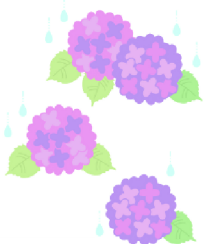
「安居会(夏の法要)」(善教寺本堂)

六月 二十二日(土) 朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 米田順昭師(甘日市市 最禪寺)

\*送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)